

## 敗艇 : 文苑

著者	錦浦生
雑誌名	龍南會雜誌
巻	5 4
ページ	5 1 - 5 1
発行年	1897-03-13
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/4789">http://hdl.handle.net/2298/4789</a>

戀ひわびて  
雪見がてらと

たづね來つれど  
我はこたへん。

君問はし  
水

敗  
艇  
親友會  
錦  
浦  
生

畫津の湖畔彩霞たなびき、

神機一髮他を顧るに遑わらず、

幾萬の士女雲の如く群る。

歡聲湧が如く砲復た轟く。

綺羅錦繡花を欺くの装、

決勝線上敗艇空しく漂ひ、  
壯士擢を擲ちて天の一方を睨む。

水底相映す幾十の旗。

「此怨此恥雪かずして息まんや、  
勾踐尙知る會稽の恥。  
日東男子豈此慨莫からんや、  
來れ敗軍の壯士何を涙を拂て起たさる。」

忽然一聲號砲轟き、

三艘の端艇波を截て飛ぶ。

赤か青か將た白か  
艇舳相並んで優劣定め難し。

水禽睡を攪して驚き叫び、  
波濤怒る所陀聲急なり。

岸上稠人手を拍て呼び、  
漕手愈々勇み波益々躍る。

湖邊蕭々人全く絶え、  
悄然手を拱ひて歩遅々たり。

大喪に逢ひ奉りて  
松 露 生

久方のくもるに月のかくるひてひとの涙を去くれ初ける